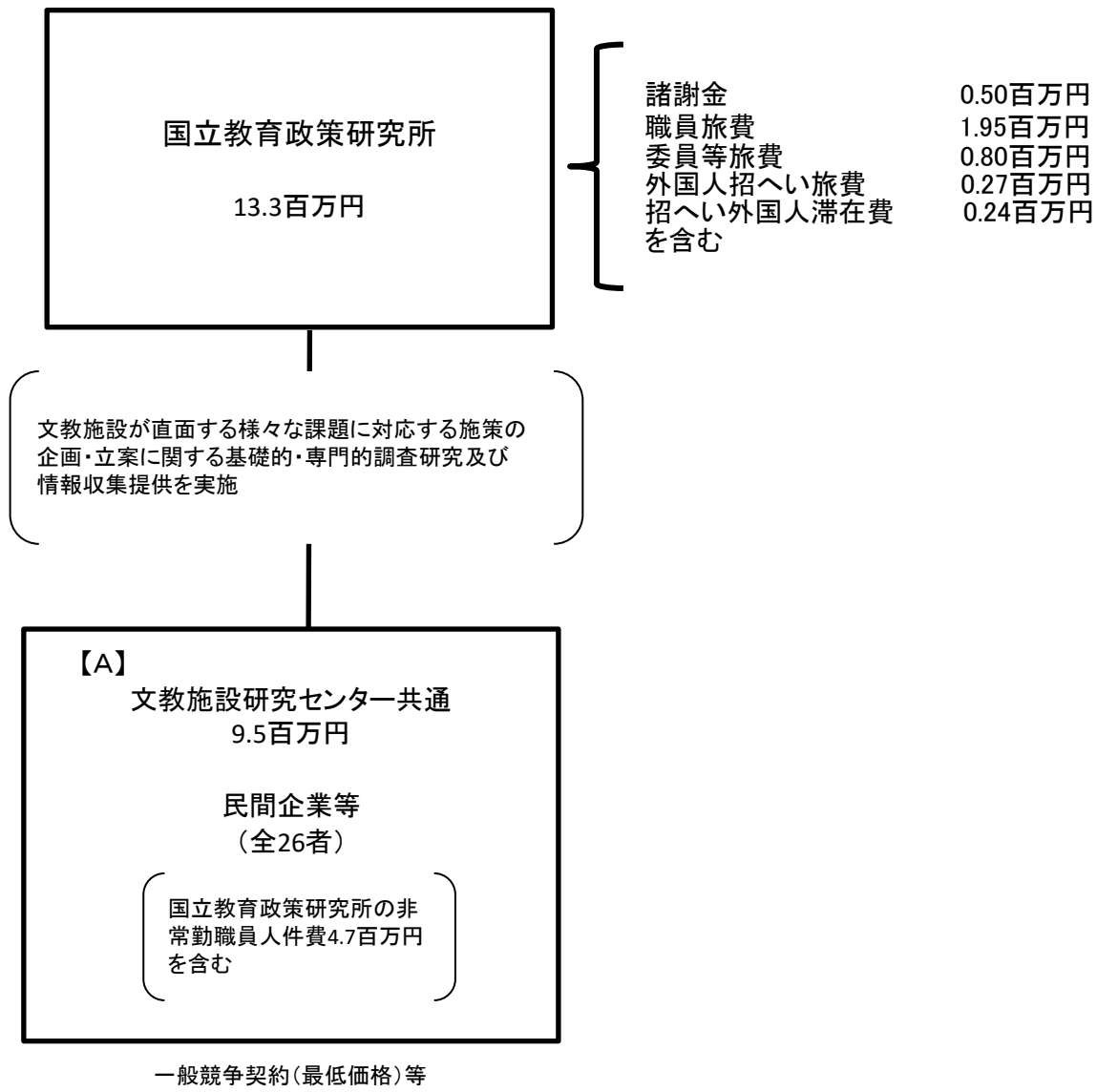


	令和5年度行政事業レビューシート					(文部科学省)		
事業名	文教施設研究センター			担当部局庁	国立教育政策研究所		作成責任者	
事業開始年度	平成16年度	事業終了 (予定)年度	終了予定なし	担当課室	文教施設研究センター		文教施設研究センター長 藤井 隆	
会計区分	一般会計							
根拠法令 (具体的な 条項も記載)	文部科学省令組織令第81条			関係する 計画、通知等	新たな教育振興基本計画(令和5年6月16日閣議決定)			
政策	2 確かな学力の向上、豊かな心と健やかな体の育成と信頼される学校づくり			主要経費	科学技術振興費			
施策	2-5 安全・安心で豊かな学校施設の整備推進							
政策体系・評価書URL	https://www.mext.go.jp/content/20211220-mxt_kanseisk02-000019646_2-5.pdf							
事業の目的 (5行程度以内)	学校施設の多様な学習活動への対応、省エネルギーや二酸化炭素排出量の削減、防災対策や老朽化・長寿命化対策等、学校施設が直面している今日的な課題に対して、その諸施策の企画・立案に資するため、適切な実態把握とこれに基づく解決策等の検討など専門的・技術的な観点に立った調査研究を行い、その成果を広く内外に普及・啓発する。							
現状・課題 (5行程度以内)	文教施設を取り巻く社会状況の変化や、教育課程の充実・改善に関する各種提言を踏まえ、文教施設が直面する様々な課題について、基礎的・専門的調査研究を行っている。具体的には、文教施設における環境対策、安全・安心な学校づくり、多様な学習活動への対応等に関する調査研究や、文教施設に関する情報収集、発信を行っており、また、海外の研究機関との交流事業の実施や、国内外から講師を招へいした文教施設研究講演会の開催など、国際的な研究交流も積極的に行っている。なお、当センターが発信した調査研究等の情報の波及効果についての検証が課題である。							
事業概要 (5行程度以内)	○文教施設に関する基礎的・専門的調査研究 課題ごとに関係分野の専門家の協力を得て研究会を設置し、調査や委員会等を行い対策を検討し、その成果を報告書にまとめ公表。報告書は、文部科学省の関連施策のエビデンスや事業遂行のツールとして活用されるとともに、全国教育委員会や国立大学法人等で活用されている。 ○高度化・複雑化する課題に対応するための情報収集・発信機能の充実 基礎的調査研究の実施に必要な国内外の関連施策や文献に関する情報収集・分析を行うとともに、学校施設に関する講演会の企画や海外の研究機関との交流を通じ、学校施設の国際比較や先進事例に関する情報収集・発信を行う。							
事業概要URL	-							
実施方法	直接実施、委託・請負、その他							
補助率等	-							
予算額・執行額 (単位:百万円) (インプット)			令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度要求	
	予算の 状況	当初予算(A)	15.5	16.7	16.7	12.8	16.4	
		補正予算(B)	-	-	-	-		
						-		
						-		
						-		
						-		
						-		
		前年度から繰越し(C)	-	-	-	-	-	
		翌年度へ繰越し(D)	-	-	-	-		
		予備費等(E)	-	-	-	-		
	計(F) =(A)+(B)+(C)+(D)+(E)	15.5	16.7	16.7	12.8	16.4		
	執行額(G)		10.7	14.2	13.3			
	執行率(%) =(G)/(F)		69%	85%	80%			
	当初予算+補正予算に対する執行額の割合(%) =(G)/[(A)+(B)]		69%	85%	80%			
令和5・6年度 予算内訳 (単位:百万円)	歳出予算項・目		令和5年度当初予算	令和6年度要求	主な増減理由(・要望額・予備費)			
	(項)		国立教育政策研究所		-			
	(目)		試験研究費	8.9				13
	(目)		諸謝金	1.1				1
	(目)		外国人招へい旅費	1.0				1
	(目)		職員旅費	0.8				1
	(目)		委員等旅費	0.5				1
	(目)		招へい外国人滞在費	0.5				1
			その他					
	計(A)		12.8	16.4				

活動内容① (アクティビティ)		本事業は、教育、行政、大学の研究者等文教施設に携わる全ての関係者を対象としており、文教施設が直面している今日的な課題に対する最新の調査研究成果等の普及・啓発を行う。								
↓										
活動目標及び活動実績 ① (アウトプット)		活動目標	活動指標		単位	令和2年度	令和3年度	令和4年度	5年度 活動見込	6年度 活動見込
		調査研究成果の普及・啓発、講演会の実施	調査研究及び研究交流活動の実績件数	活動実績	件	8	5	5	－	－
				当初見込み	件	8	6	6	6	－
↓	成果目標①-1の 設定理由 (アウトプットからのつながり)	当センターの活動の一つである講演会で得られる情報が、どの程度参加者にとって有益であるかという点が、短期的な評価であると考え、参加者アンケートの「役に立った」割合を短期アウトカムとして設定した。								
成果目標及び成果実績 ①-1 (短期アウトカム)		成果目標	定量的な成果指標		単位	令和2年度	令和3年度	令和4年度	目標年度 － 年度	
		文教施設研究講演会(国際シンポジウム)を開催し、調査研究及び研究交流活動の成果報告等を広く内外に普及・啓発する。	参加者アンケートにおいて「非常に役に立った」「ある程度は役に立った」と回答した参加者の割合(%)	成果実績	%	97	99	89	－	
				目標値	%	90	90	90	－	
				達成度	%	107.8	110	98.9	－	
成果実績及び目標値の根拠として用いた統計・データ名(出典)/定性的なアウトカムに関する成果実績		文教施設研究講演会アンケート集計								
↓	成果目標①-2の 設定理由 (短期アウトカムからのつながり)	文教施設研究講演会(国際シンポジウム)においては、当センターが実施している各種調査研究の成果を踏まえつつ、学校施設を取り巻く課題をテーマとして選定している。このため講演会の実施は、研究成果を学校施設整備に携わる全ての関係者に対し普及させる有効な手法であるが、講演会の参加者アンケートにおいて「文教施設研究センターの調査研究等の成果(報告書、データ等)が学校施設の整備等の参考になっていると感じる」割合が、当センターが実施している学校施設整備等に関する調査研究の成果の有用性を計るより継続的・長期的な評価であると捉え、長期アウトカムとして設定した。								
成果目標及び成果実績 ①-3 (長期アウトカム)		成果目標	定量的な成果指標		単位	令和2年度	令和3年度	令和4年度	目標最終年度 － 年度	
		文教施設研究講演会(国際シンポジウム)を開催し、調査研究及び研究交流活動の成果報告等を広く内外に普及・啓発する。	参加者アンケートにおいて「調査研究等の成果が学校施設の整備等の参考になっていると感じる」と回答した参加者の割合(%)	成果実績	%	－	－	98	－	
				目標値	%	－	－	90	－	
				達成度	%	－	－	108.9	－	
成果実績及び目標値の根拠として用いた統計・データ名(出典)/定性的なアウトカムに関する成果実績		文教施設研究講演会アンケート集計								
アウトカム設定についての説明		アクティビティ①について定性的なアウトカムを設定している理由								
		－								
		アクティビティ①についてアウトカムが複数設定できない理由								
		－								

資金の流れ
(資金の受け取り先が
何を行っているかにつ
いて補足する)
(単位：百万円)



費目・使途
(「資金の流れ」において
ブロックごとに最大の金
額が支出されている者につ
いて記載する。費目と
使途の双方で実情が分
かるように記載)

A.			B.		
費 目	使 途	金 額 (百万円)	費 目	使 途	金 額 (百万円)
雑役務費	令和4年度文教施設研究講演会運営支援業務	2.3			
計		2.3	計		

費目・使途欄についてさらに記載が必要な場合はチェックの上【別紙2】に記載

チェック

